

鹿児島大学附属図書館資料収集方針

令和4年7月12日

附属図書館長裁定

(趣旨)

第1 この方針は、鹿児島大学附属図書館規則(平成16年規則第90号)第8条の規定に基づき、鹿児島大学附属図書館(以下「図書館」という。)の図書館資料の収集に関して必要な事項を定める。

(適用範囲)

第2 本収集方針は中央図書館、桜ヶ丘分館及び水産学部分館に配架する資料について適用する。

(基本方針)

第3 図書館の自由に関する宣言(公益社団法人日本図書館協会 1954年採択 1979年改訂)を遵守し、公正な資料収集に努めるとともに、鹿児島大学憲章、鹿児島大学学生憲章、鹿児島大学教育目標等、鹿児島大学の理念を踏まえ、高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤となる資料を収集・整備するよう努める。

2 図書館資料収集の基本方針は以下のとおりとする。

- (1) 原則として各館に未所蔵の資料とし、特に必要と認める場合は複本も可とする。
- (2) 収集資料には冊子資料以外の媒体も含むものとし、電子書籍や、電子ジャーナルや文献データベース等についても収集の対象とする。
- (3) 学習・研究上有用なシリーズ等については、継続して収集する。
- (4) 版改訂図書は利用頻度と予算額を勘案し可能な限り収集する。
- (5) 学生の知的好奇心を喚起するため、新書・文庫についても収集する。
- (6) 鹿児島大学関係出版物(前身校に関する資料含む)については網羅的に収集する。

(選定基準)

第4 前項の基本方針に基づき、図書館資料を選定するにあたっての具体的な基準は別表のとおりとする。

(資料収集の方法)

第5 資料の収集方法は、購入、寄贈、交換等の手段を活用して行う。

(寄贈資料の受入基準)

第6 寄贈資料については、本収集方針の外、別に定める鹿児島大学附属図書館寄贈資料受入基準(令和4年7月12日附属図書館長裁定)に基づき受入れの可否を判断する。

(管理及び保存)

第7 資料の管理及び保存は別に定める鹿児島大学附属図書館資料の管理に関する実務要項(平成23年2月18日館長裁定)に基づき行う。

(除却)

第8 効率的な蔵書構築の観点から不要と判断した資料について登録の抹消及び除却を行う。資料の除却は別に定める鹿児島大学附属図書館資料の除却に関する実務要項(平成17年7月1日附属図書館長裁定)に基づき行う。

附 則

鹿児島大学附属図書館図書管理指針(平成 16 年 4 月 1 日館長裁定)は廃止する。

別表(第4関係)

I. 資料区分別選定基準

資料区分	資料区分細目	選定基準
1 学生用図書	イ 選書 ワーキング グループ 選定図書	◎学生の教養を涵養する資料で、かつ下記要件を満たす資料 <ul style="list-style-type: none"> ・各学問分野等で基本的に備えておくべき資料 ・(ハ)、(ニ)について希望又は推薦のあった図書について予算額、分野バランス等を考慮して選定。 ・評価の定まっている古典及びその関連資料 ・社会問題等に関する資料 ・各学問分野の最先端に触れる資料及び知的好奇心を喚起する資料 ・定評のある受賞作品 ◎学修のための各学問分野に関する資料でかつ下記を満たす資料 <ul style="list-style-type: none"> ・基本文献、概説書及び定番教科書類 ・分野を網羅的に鳥瞰する全集、叢書、講座、大系及び教科書シリーズ ・各分野の研究動向に関する資料、研究入門及び資料ガイド ◎進路(就職・資格・進学等)支援資料で下記を満たす資料 <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な就職活動に関する資料 ・資格取得に関する資料 ・大学院進学に関する資料 ◎語学学習・留学に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ・英語等の多読リーダー ・語学検定に関する資料 ・留学先の選定、留学の準備・手続き等に関する資料 ◎学修支援資料 <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックスキルを高めるため学修方法、レポート・論文作成に関する資料 ・パソコン、文書作成及び表計算等に関するソフトウェアの利用方法に関する資料
	ロ シラバス掲載図書	・シラバスに掲載されている教科書及び参考書
	ハ 教員推薦図書	・教員が推薦する資料について、予算額、分野バランス等を考慮して選書ワーキンググループが選定する。
	ニ 学生希望図書	・学生が学習及び教養を高めるために必要とし、購入を希望する図書

2	留学生用資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習のための資料 ・日本の社会や文化を各種言語で紹介する資料 ・留学生出身国の社会や文化を紹介する資料
3	参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習及び教職員の事項調査等に必要の各国語辞書用語辞典、百科事典、ハンドブック、図鑑、人名辞典、地名事典、年表、地図、法令集等 ・日本政府、国際機関その他の機関が刊行する白書、各種年鑑類、各種統計類、要覧等で、主要な資料、特に本学の教育・研究に必要な資料 ・本学の教育・研究及び学生の学習に必要な文献調査及び情報検索のための二次資料
4	研究用共通図書	<ul style="list-style-type: none"> ・高額資料の効率的収集のため、共同収集の合意が得られた資料
5	逐次刊行物	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌、白書・統計類、年鑑等
6	非印刷資料	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚資料、電子資料、マイクロ資料等
7	電子的資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークを介して利用する電子ジャーナル、データベース等
8	郷土資料	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県及び県内各市町村の刊行する沿革・歴史・産業・観光・統計等に関する資料 ・鹿児島県及び県内各市町村に関する資料
9	本学関係資料	<ul style="list-style-type: none"> ・本学及び本学関係機関が発行する学術資料 ・本学の教職員及び本学関係者の学術的著作物
10	貴重書	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重書については鹿児島大学附属図書館貴重書収集取扱要項(令和3年3月1日附属図書館長裁定)に定める

II. 主題別選定基準

総記(000~999)	<p>◎情報学、図書館関係、百科事典及び一般論文集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学問論及び研究法関連は網羅的に収集する。 ・情報科学及びコンピュータ関係の資料は発展が著しい分野であるため蔵書内容が陳腐化しないよう常に新情報の収集に努める。 ・図書館関係は、一般学生の図書館に対する関心を高める他、図書館職員の業務の参考資料として役立つこと等も考慮して収集する。
哲学(100~199)	<p>◎哲学、心理学、倫理学及び宗教に関する資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学及び思想関係の資料は、主要な哲学者及び思想家の著書を中心に、伝記、解説書及び研究書を幅広く収集する。西洋哲学に偏る等しないよう、日本・東洋哲学、その他にも配慮して収集する。 ・現代思想にも注意を払い、蔵書構成が時代遅れにならないよう留意する。 ・心霊研究及び易占関係の資料は、原則として収集しない。 ・人生訓関係の資料は、類似内容の資料が繰り返し出版されているため、学生の教養や学習

	<p>に資するものを厳選して収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の資料は、中立かつ公正な立場を守り収集する。
歴史(200～299)	<p>◎歴史・伝記・地理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史関係の資料及び伝記資料は、各国、各時代のもを史料類も含めて収集する。歴史観、人物観により対立する意見もあることを踏まえ、客観性や正確性に留意する。 ・地理及び地誌関係の資料は、世界各国、各地域についての情報を提供できるよう、偏りのない収集を心がける。
社会科学(300～399)	<p>◎政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣及び国防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会及び文化事情に関する資料は、時事性に留意し、世界各地域についての資料は可能な限り収集する。 ・法律に関する資料は、各法の入門書を中心に収集する。 ・経済及び経営に関する資料は、基本的な理論だけでなく、最新の経済情勢についての資料も収集する。 ・投資・利殖に関する資料は、原則として収集しない。 ・産業構造及び労働市場の変化に的確に対応するため、就職、就職活動、職業能力開発等に関する資料も収集する。 ・教育関係の資料は、教育学部・教職課程の内容に留意し、学校、家庭、社会等の各教育において、基本的な学術・研究書から教育現場における実用書まで収集する。
自然科学(400～499)	<p>◎数学、物理学、化学、天文学、宇宙科学、地球科学、地学、生物科学、医学及び薬学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学関係の資料は、各分野とも進歩の著しい分野であるため、最新の研究成果に留意し、入門書から専門書まで収集する。 ・医学及び薬学関係の資料は、医学的根拠が明確で安全性が高いと思われるものを収集する。 ・食物栄養学に関するものは、関連領域の資料も含め可能な限り収集する。
技術(500～599)	<p>◎技術、工学、家政学及び生活科学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術及び工学関係の資料は、本学の学部・学科に関連のある主題のものを収集する。現場で使用する実用書類は原則として収集しない。 ・ハンドブック、データ集及び専門辞典類は参考図書配架する資料とのバランスに留意する。
産業(600～699)	<p>◎農業、畜産業、獣医学、園芸、林業、水産業、商業、運輸及び通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業に関する資料は、各産業の歴史、実情、動向等について収集する。また常に新しい研究成果、技術等に留意する。 ・獣医学及び水産学の資料は本学の研究科及び学部・学科に関連のある主題のものを収集する。 ・商業関係の資料は、理論的なものを中心に収集する。
芸術(700～799)	<p>◎美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸及び娯楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術に関する図書は、理論(技法、芸術教育を含む)書、芸術史、芸術家論(評伝)、作品論及び作品に大別されることに着目し、予算や全体の蔵書構成のバランスを考慮し網羅的に収集する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・美術関係の資料は、著名な芸術家の作品集、作品研究等を中心に、趣味、娯楽及び教養に資する作品集、研究書、技法書等を収集する。 ・漫画については、漫画文化一般についての研究書等の収集に留め、原則として作品そのものは収集しない。ただし、本学の研究や学生に資すると判断される場合や古典としての評価が定まり史料的価値のあるもの、定評ある賞を受賞する等、内容の評価が高いものについては収集する。 ・音楽関係の資料は、音楽のジャンルを問わず収集する。楽譜の類については、冊子形態のものを収集し、一枚物の楽譜などは原則として収集しない。
言語 (800～899)	<ul style="list-style-type: none"> ・言語哲学及び言語理論については網羅的に収集する。 ・個々の言語に関する資料については、対象とする言語を問わず専門的な研究書を収集する。 ・個々の言語に関する辞書、読本、文法書及び会話集については、本学の語学関連授業の内容や留学生の構成を考慮して収集する。
文学 (900～999)	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する図書についても[芸術(700～799)]と同様、理論(作法、文学教育を含む)書、文学史、作家論(回想録を含む)、作品論及び作品から成ることに留意し、網羅的に収集する。 ・古典文学から最新の現代文学まで、各国の文学作品、研究書等を収集する。 ・著名な作家及び文学者については、個々の作品だけでなく個人全集、伝記、作家研究、評論等も 収集する。 ・改訂・増補等により一部でも内容に違いがある場合は、別の資料として扱う。古典や外国文学で訳者が異なるものについても同様に扱う。 ・推理小説、大衆小説及び時代小説は原則として収集しないが、定評ある賞の受賞作品、作品年鑑(年間の代表作を収録したもの)及び一括購入するコレクション等に収録されているものについては収集する。